

仏弟子ということ

水嶋 聡

お話をしなければならぬなあと、思いつて、今は法話をさせていただいています。そして、昨日から皆さんと一緒に二泊三日、同朋会館で生活しています。この生活も時間が来れば終わります。終わったら、「ああ、残してきた仕事をやらなければならぬなあ」と思いながら、家に帰ってまた自分の仕事につくでしょう。

こうして、私の人生は、一つ一つこなし、きたわけです。手を抜かずに、一生懸命に。皆さんもそうですね。毎日毎日、一つこなし、一つこなし、一日一日一生懸命こなし、いく。あつという間に一週間が経ち、一カ月が経ち、そして予測もしないうちに生涯が終わることでしょう。それが私たちのいのちなのであります。

さて、この一生、皆さんの目標は何でしょうか。一日一日こなすことで目一杯になって、目標があることを忘れていないでしょうか。私たちの生涯の目標とは何でしょうか。おそらく生まれた時は目標をもらってきたのだと思いますけれども、一日一日一生懸命生きていくつもりが、すっかり目標を忘れてしまった。それでも一生懸命歩いているわけです。

皆さんどうでしょう。私は思い当たるところがたくさんあるのです。一生懸命こなし

はいる。でも目標をすっかり忘れてしまっている。

今日、皆さんは帰敬式を受けられ、法名をいただかれた。剃刀の儀の後の執行の辞に「仏弟子として新たに出發をする式です」という言葉がありました。また誓いの辞に「仏弟子として」とあります。誓いというのは約束ですね。皆さんも約束されたわけです。

仏弟子となるとはどういうことでしょうか。先生の教えを聞く者を弟子といいます。では、先生とは誰でしょうか。仏さまであります。仏さまの教えを聞いていく。それが仏弟子であります。

「正信偈」の中に善導という方が出てきます。善導大師は仏のお言葉についてこのように仰っています。

「仁者、但決定して此の道を尋ねて行け」

『教行信証』信卷

『真宗聖典 第二版』二四八頁

と。「仁者」と、お一人お一人に呼びかけているのです。「あなた、いいですか」と。「但」というのは、このこと一つということ。決定して此の道を尋ねて行け」とは、「しっかりと心に定めて、この道、お念仏の道を歩いていきなさい」と。私たちの目標は、念仏の道を歩いていくということなのだ。これを仏弟子というのだと、私はいただいています。

目標を忘れている私たちに、あらためて目標を授かったのが、この日であります。それは本当にありがたいことであり、喜ばしいことです。しかし私たちは、またすぐ彷徨う人生に戻ってしまうのです。その時、「なんなんだぶ、なんなんだぶ」と、あらためて「念仏の道を歩め」という私たちへの呼びかけを聞き、共にお念仏の道を歩んでいきたいと思

以上

水嶋 聡

一九六七年生まれ。

新潟教区第一組光徳寺住職